

# 課外活動とソフィア会の活動から振り返る本学の50年

上智大学短期大学部教授 森 下 園

本学が創立 50 周年を迎えたこの機会に、本学学生の課外活動と同窓会である上智大学短期大学部ソフィア会のこれまでの活動を中心に振り返り、まとめておきたい。

私は本学 10 期生であり、1999 年に本学の嘱託講師に着任、2000 年に専任教員となり 2024 年に勤続 25 年を迎える。様々な委員会で活動をしてきたが、ここ最近では進路・学生生活専門委員会で学生生活部門を担当している。ここでは上智大学短期大学部通信（以下、通信）と履修要覧の記述をもとに課外活動とソフィア会の活動をみていく。

## 1. 課外活動

### (1) Sophia Junior Festival（以後、SJ 祭）

最初に大学祭として毎年 10 月に開催している SJ 祭を振り返る。

現在の SJ 祭に関する記事が通信に登場するのは 2 号（1980 年 7 月）で、第 3 回文化祭は 10 月 18 日と 19 日に行われる予定であるが、名称を Sophia Junior 祭と改め、テーマは“More Active”とあるので、1978 年に始まったことがわかる。さらに、通信 9 号（1982 年 8 月）で第 1 回開催時には十月（かな）祭として“Maiden Voyage”をテーマにしたとの記述がある。以後、通信では文化祭、ソフィア・ジュニア祭、SJ 祭などの名称で記事が定期的に掲載されるようになる。創立以来、大学行事としてスポーツ・デイがあったため、大学祭を文化祭と当初は位置付けていたのだろう。SJ 祭は学生からなる SJ 祭実行委員会が主体となって企画運営し、教職員がそれを補助するスタイルが 1 回から踏襲されている。

通信 3 号ではソフィア・ジュニア祭でクラス・サークル展示や研究発表、講演会、聖マリア寮生コーラス、セビアナス舞踊、2 年次有志の Jodan Dance、体育館で「夕鶴」、シェイクスピア「間違い喜劇」、「風と共に去りぬ」の上演に加えてチャゲ&飛鳥コンサートが行われ、テレビ録画がされたとの内容で、Covid-19 感染拡大による SJ 祭のオンライン化からようやく入場者を自由に受け入れての開催にこぎつけた 2023 年度と比較すると、隔世の感がある。聖マリア寮生によるスペイン舞踊セビアナスはこれ以降も聖マリア寮が 2020 年に閉寮を迎えるまで SJ 祭ステージに登場する人気プログラムであった。

SJ 祭は開始以来秋（10 月または 11 月）の土日の二日間開催であり、年度によっては前後夜祭なども行っていた。しかし SJ 祭実行委員として運営を担う 2 年次生はこの時期に編入試験の受験があったり、就職活動の長期化などがあったりと参加学生の負担も考慮して、

2017年から土曜日1日開催となった。また、2000年から本学ソフィア会（同窓会）が卒業25周年を祝う記念式典をSJ祭に行い、にぎやかなキャンパスを同窓生が再訪する機会となった。SJ祭はステージ企画、教室企画、模擬店などを中心に、講演会、コンサート、劇の上演などに加え、2010年には児童英語ボランティアのサークル活動と連動してキャンパスでハロウィンイベントが行われた。サービス・ラーニング活動でかかわりのある地域の児童や外国籍市民の方々、ソフィア後援会、ソフィア会など様々な方々がSJ祭に参加され、学生との交流を楽しむ日となっている。SJ祭実行委員にとっては協賛のお願いなどで学外の社会人との交渉や、学内関係者との連絡・調整など、協働してひとつのイベントを実施するなかで社会人基礎力を身に着けるよい機会ともなっている。

SJ祭のテーマを記録のためにあげておく。

- 1回（1978） Maiden Voyage （十月祭としてスタート）
- 2回（1979） Fly for the Future
- 3回（1980） More Active （Sophia Junior 祭に）
- 4回（1981） More Creative
- 5回（1982） Do! Do! Do!
- 6回（1983） BLOOM どう咲きますか
- 7回（1984） Heroine 舞いませう今宵、貴女もエレガンス
- 8回（1985） 過激に華を咲かせましょう
- 9回（1986） ソフィアン・レボリューション
- 10回（1987） ミズ・クリエイティブ
- 11回（1988） ああ我が心の故郷
- 12回（1989） La Fiesta de las Guapas（美女の祭典）
- 13回（1990） The United Colours
- 14回（1991） 才華～知性に華やかさを添えて
- 15回（1992） Rough Diamond～輝石をめざして
- 16回（1993） Seize the Day 一時は待ってくれない
- 17回（1994） Gold Rush～未知への探求
- 18回（1995） Estoy aqui！（私はここにいます！）
- 19回（1996） Love Shock
- 20回（1997） Σ O Φ I A・・・叡智
- 21回（1998） The Boom – girls be Ambitious!
- 22回（1999） Seeking Spiritual Beauty
- 23回（2000） 燃えろいい女2000
- 24回（2001） ソフィアなでしこ

- 25回 (2002) Sophisticated Girls
- 26回 (2003) 百花繚乱
- 27回 (2004) Sophilia
- 28回 (2005) 波瀾万丈
- 29回 (2006) 凜
- 30回 (2007) Whoop it up!
- 31回 (2008) SPICE UP YOUR LIFE 60s
- 32回 (2009) SHIFT – Change your heart, change your world –
- 33回 (2010) TWINKLE × TWINKLE – For our Dream
- 34回 (2011) Sparkling Magic ～ for our Smiles
- 35回 (2012) HEART<sup>9</sup> ～ Girls just wanna have fun! ～
- 36回 (2013) Challenge! ～ Girls Be Ambitious ～
- 37回 (2014) Treasure Every Encounter
- 38回 (2015) Over the Rainbow
- 39回 (2016) Make Our Story
- 40回 (2017) New Beginning
- 41回 (2018) Peace Begins with a Smile ～ そこのあなたも笑いな祭
- 42回 (2019) Sophia Beautiful Harmony –人から人へ、心をつなぐみんなの輪
- 43回 (2020) Challenge Accepted ～ the Sky is the Limit ～  
(Covid-19 感染拡大のため作成動画の公開という形式で実施)
- 44回 (2021) From Here to the Future ～未来へ向かう物語  
(動画コンテンツ+中庭ステージの生配信の形式で実施)
- 45回 (2022) With Hearts United  
(来場者は在学生と関係者、同窓生、教職員など関係者のみに制限)
- 46回 (2023) The Best is here ～最高傑作をここに～

なお、2024年度については、規模を縮小して実施する予定である。

## (2) 課外活動団体

開学以来、さまざまな課外活動団体が創設され、活発な活動を行ってきた。1974年の履修要覧には、英語劇、スペイン語愛好会、Sophia English Association (S.E.A.)、Sophia Enterprise Association (S.E.A.)、人形劇サークル、カメラ愛好会、硬式テニス愛好会、山を愛する会が挙げられている。このなかで2023年度も活動しているのは、S.E.A.のみである。

時期により課外活動団体の数と学生参加者数はかなりの増減がある。1980年代後半に課

外活動団体が大幅に増加したが、1990年代後半になると減少していく。短期大学は活動期間が2年間しかないため、就職活動の時期が早まると2年次生は活動に参加しにくくなり、1年次生にはノウハウが継承されないなどの問題があったと考えられる。しかし、英語科である本学においてS.E.A.が一貫して活動を継続していたのは特筆に値する。歴代顧問の先生方の積極的な支援もあってのことと思う。しかし、2020年のCovid-19感染拡大と授業のオンライン化により、課外活動団体の大半はほぼ活動休止に追い込まれた。しかも2年次生とともに活動した経験のない1年次生が活動を引き継ぐのは困難もあり、存続が危ぶまれた団体も多い。2023年度現在の活動状況は完全とは言えないがCovid-19問題以前の状態に近づきつつある。課外活動もまた、学生主体の活動の場として教室の学びやSL活動と並び重要であるので、こうした活動の歴史をきちんと記録に残していくようにしたい。

活動団体について、1975年から5年刻みでみていく。

1975年：S.E.A.、人形劇サークル、美術愛好会、ソフィアフォークダンス、落語研究友の会

1980年：硬式テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフィアレミケリトスキー、ピンポン、野球、S.E.A.、英語劇愛好会、ピーナッツクラブ（ボランティアサークル）、漫画研究会

1985年：S.E.A.、ガリラヤ会（カトリック学生の会）、ASCOMI（Astro Community）、写真愛好会、ソフィア・コーラス・クラブ、漫画研究会、ピーナッツクラブ（社会奉仕と福祉活動）、上智国際セミナー秦野市部、硬式庭球愛好会、ジャズダンス愛好会、バレーボール愛好会、陸上競技愛好会、エアロビ・ビューティ・スペシヤル、バスケットボール愛好会、バドミントン愛好会、レミケルト・スキー・サークル、軟式テニス愛好会、ソフィア・ジュニア祭実行委員会、学生会設立準備委員会、卒業行事準備委員会

1990年：S.E.A.、ガリラヤ会、ASCOMI、グリークラブ、World Eyes Club（世界の諸問題に取り組み他者と交流）、硬式テニス愛好会、ジャズダンス愛好会、バレーボール愛好会、バスケットボール愛好会、バドミントン愛好会、ソフィア・ジュニア祭実行委員会、卒業記念行事委員会、スポーツデイ実行委員会

1995年：S.E.A.、ガリラヤ会、Glee Club、硬式テニス愛好会、ソフィアジュニアダンスチーム、バレーボール愛好会、バドミントン愛好会、新入生歓迎会委員会、ソフィア・ジュニア祭実行委員会、卒業記念行事委員会、学生通信編集委員会

2000年：S.E.A.、ガリラヤ会、日本文化研究会、硬式テニス愛好会、バレーボール愛好会、バドミントン愛好会、新入生オリエンテーション・キャンプ実行委員会、ソフィアジュニア祭実行委員会、1年次生連絡委員会、2年次生連絡委員会、学生通信編集委員会、家庭教師ボランティア

- 2005年：S.E.A.、Sophia F.C.、上智短大見聞録部、SMC（音楽サークル）、和（茶道サークル）、バレーボール、バスケットボール、バドミントン愛好会、ソフトテニス、硬式テニス、Art and Photo、フットサル、Hip Hop Dance、美術 dessin&painting、English Drama Club、In the PALM(手話サークル)、ガリラヤ会、王統流空手道、SJ祭実行委員会、剣道、NASA、PC、英語教育、総合芸術（音楽、造形、パフォーマンス）、カトリック学生の会
- 2010年：S.E.A.、児童英語教育サークル(BTC)、手作り絵本サークル、SMC（音楽）、和サークル（茶道等）、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニス、硬式テニス、ヨガ、フットサル、Sophia Dance Booty、Winter Sports、ALL ROUND、Agriculture（農業）、ガリラヤ会、エコサークル、空手、ソフィアジャーナル（見聞録）、漫画研究サークル、写真部、Harmony of SJC、Actress on Stage、SJ祭実行委員会
- 2015年：S.E.A.、児童英語教育サークル（BTC）、手作りの会、音楽サークル、和サークル、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、硬式テニス（テニスサークル）、Sophia Dance Booty、ガリラヤサークル、Sophia Journal、漫画研究サークル、STEP、SJ祭実行委員会、社会科学研究会（SGLabo）、SOPHIA SHOOTING、陶芸サークル、ソフトテニスサークル、Sophian Style
- 2023年：S.E.A.、SJ祭実行委員会、和サークル、上智ジュニアボランティアサークル、バスケットボールサークル、バレーボールサークル、ダンス・クラブ、

こうした活動の場を正式に閉学するその時まで、学生が持てるようにしたい。

## 2. 本学ソフィア会の活動

ソフィア会（同窓会）は1期生が卒業した1975年に創設された。しかし活動を担う役員の多くは秦野キャンパスから遠い地域にいるため、一時期活動が中断していたことが通信2号（1980年7月）からうかがえる。その後4期生の横瀬（豊島）恵美さんを会長に活動が再開され、総会もひらかれるようになった。会長は6期生の濱真理子さんへと引き継がれ、歴代会長のもと同窓生名簿が整えられていった。2000年に第一回銀祝（卒業25周年）記念式典が、2014年には第一回ルビー祝（卒業40周年）記念式典が行われた。2025年には第一回金祝（卒業50周年）記念式典の秦野キャンパスでの実施が平野由紀子会長のもと計画されている。

2004年度からは同窓生講師が輪講形式で卒業後の活動を語る「キャリアプランニング」が羽場勝子先生（現名誉教授）のご提唱で開始され、ソフィア会は同窓生講師の交通費を1回5000円を上限として補助を行い、講師の方々は報酬なしのボランティアでお話くださる

という同窓会寄付講座となった。「キャリアプランニング」では1期生から卒業後数年の同窓生まで多彩な活動やお仕事などについて多くの方々が学生のために貴重な講義を行ってくださった。「キャリアプランニング」はCovid-19感染拡大によりオンライン授業が導入されたのを機に、同窓生講師の方はご自宅や職場からZoomで講義を行い、コーディネータ教員が教室でそれを投影してリアルタイムの質疑応答も行う形式となった。多くの同窓生講師の方に加えて、地元秦野市役所の方をゲスト講師にお迎えし、卒業後の長いキャリアや人生を考える学生のために貴重なお話をしてくださっている。ご協力くださった同窓生講師の方々、ソフィア会、秦野市に感謝申し上げたい。

ソフィア会は聖堂のオルガン寄付などのほか、2003年度からは学生のための奨学金も提供しており、2014年度には初代学長である故ジェラルド・バリー師の名を冠したジェラルド・バリー賞の原資を出している。同賞は卒業式で授与されてきた。

本学閉学後も、ソフィア会は同窓生同士をつなぎ、最後の卒業生が金祝を迎えるまでは活動を継続する。そのため、できるだけ卒業年次ごとに連絡委員を募り、金祝・ルビー祝・銀祝をきちんと実施していく体制を整えようとしているところである。

以上、非常に簡単ではあるが、課外活動とソフィア会についてまとめてみた。いずれ閉学するときまでにはもう少し詳細なデータを電子化して保存しておけるようにしたいと考えている。

創立50周年となる本学の歴史と今後の50年をうまくつなげていけることを願い、記念の原稿としたい。